

春秋会

ニュースレタ

2022.3

春秋会会員のみなさま

広瀬広報委員長の下でお送りする最後のニュースレターとなります。

次年度からは堀川新広報委員長の下で、皆様にとって面白くてためになる記事をより多く発信していく所存であります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

広報委員会一同

「ゆる〜い古典芸能鑑賞のツボ@敷居は案外低いんよ」

(51期 小橋り)

私は20年ほど前に偶然に文楽、狂言、能を鑑賞するようになりました。歌舞伎も同時期頃から鑑賞するようになりました(その理由はまた別の機会にでも)。文楽や能に傾倒してしまってから歌舞伎は演者演目に拘って(仁左衛門さん、亡くなった先代の芝翫さん、亡くなった勘三郎さん、亡くなった藤十郎さん、猿之助さん、勘九郎さん、くらいかな?海老蔵さんは荒事のお家芸でして歌舞伎十八番のうちで助六とか勧進帳とかいいですね。愛之助さんは踊りが抜群にうまいです!!玉三郎さんは踊りだけになってしまっからは見なくなりました。)以前ほど見に行かなくなりました(その理由はまた別のところで)。広報委員会からのお勧めでこのたび文楽や能、狂言等の魅力をニュースレターでお披露目する機会を得ました。しばしのお付き合いをお願いします。題して「ゆる〜い古典芸能鑑賞のツボ@敷居は案外低いんよ」、始めます。

第1回目(2回目はあるのか?)のテーマは「劇場に行く前に本やマンガ、ツイッターで予習?」です。

其壺 書籍編

で、質問です!三浦しをんさん、いとうせいこうさん、赤川次郎さん、この三者に共通するものは何ですか?という問いにピンと来た人は相当に文楽が好きな人ですね。

答え:文楽大好き人間ということです。

★三浦しをんさんは大阪の劇場にも足を運ばれており(東京の劇場はもちろんのこと)文楽関係の本を2冊出しています。三浦しをんさんの劇評で「文楽に出てくる世話物の男はイケメンで力も金もないけどやたら女にもてて、要は床上手のダメダメなのよ(いわゆるダメンズ)」的表現を文楽劇場で販売している正式なパンフレットにばっさり・堂々と書くくらいに文楽を見てはります。書籍では、「仏果を得ず」(双葉社・2007年)「あやつられ文楽鑑賞」(双葉文庫・2011年)はいずれも大変に読みやすくなんといっても面白いです。

今月の予定

・3月1日(火)

18時~19時30分

研修企画「弁護士必見!
不動産鑑定士の使い方」

・3月2日(水)12時

第4回選考委員会

・3月12日(土)17時

30分 親睦企画「劇団四季
オペラ座の怪人」

・3月15日(火)12時

幹事会

・3月29日(火)18時

春秋会3月総会

2021 年度 広報委員

- ・広瀬 元太郎
(60 期 委員長)
- ・柳 勝久
(61 期 広報担当副幹事
長)
- ・有村 とく子
(50 期 2019 年度委員
長)
- ・中森 俊久
(55 期 昨年度委員長)
- ・山口 昌之
(58 期 昨年度副幹事
長)
- ・浦 寛幸 (59 期)
- ・木場 晶子 (67 期)
- ・田村 瞳 (67 期)
- ・吉留 慧 (68 期)
- ・信吉 将伍 (69 期)
- ・高一 成 (69 期)
- ・根本 俊太郎 (70 期)
- ・佐久間 ひろみ (71 期)
- ・足立 敦史 (71 期)
- ・村本 健司 (71 期)
- ・河野 哲平 (71 期)
- ・才木 晴幹 (72 期)
- ・久井 大輝 (73 期)



★赤川次郎さんの「文楽入門～人形は口ほどにものを言い」（小学館文庫・2007 年）人形遣い 3 人が一つの人形を「遣う」のですが彼らが全く気にならなくなる心境とか人形なのに目が生きている様子とかを書かれています。

★橋本治さんの「浄瑠璃を読もう」「もう少し浄瑠璃を読もう」（いずれも新潮社）は目うるこの文楽本です。「ああ、そうだったんだ、（文楽鑑賞してて）わかんなくてもいいんだあ♪」と納得します。で、なぜ「浄瑠璃を読む」となっているのかについてもさすが橋本さんの解説で納得です。天才が書いた本だけあります。お亡くなりになり往年のファンであるワタシは悲しい。



★大島真寿美さんの「渦」「結」（←で直木賞受賞♪）は人形浄瑠璃の戯作者（脚本家？）が新作を生み出す苦しみや喜び、歌舞伎に人気を取られていくザマ等有名な演目を通して江戸時代風物も活写したものです。



★有吉佐和子さんの「一弦の糸」は彼女が文楽を見て感動して、ほんで太棹三味線奏者に焦点を当てた大作です。絶版になって古本でゲットするしかありません（ひよっとした

ら文庫本であったかも)。マニアックな内容ですが、芸を極めていく三味線奏者の喜怒哀楽が活写されているものでお勧めです。師弟関係、太夫との関係等凄まじさ等がぐいぐいきます。

★三谷幸喜さんの「其礼成心中」は劇場公演のために書き下ろした浄瑠璃本です。曽根崎心中をもじっています。



★いとうせいこうさんはつい最近のNHK古典芸能番組（名前忘れた、高橋英樹さん司会の…）で文楽愛に関するコメントをたっぷりと言いました。彼自身のツイッターでも文楽関係の投稿があります。

@どれか一冊ということであれば、まずは「仏果を得ず」をお勧めします。

世界ローカル線紀行（4）

中国国家鉄路局：凶們—長春

さて、中国の高速鉄道について説明しよう。中国の高速鉄道については、2011年の温州市（台湾の対岸あたり）の事故以来、危険かつ隠蔽行為をするというイメージが先行している。ただ、それ



から10年以上たっており、情報はアップデートしておかないといけない。中高年を中心に、中国の技術は日本より遅れているはずだ、という固定観念または願望があるが、日本を愛しているのであれば、現実的な国力の分析が必要である。

中国の高速鉄道のレールの幅は1435mmで、中国の在来線と同じである。な

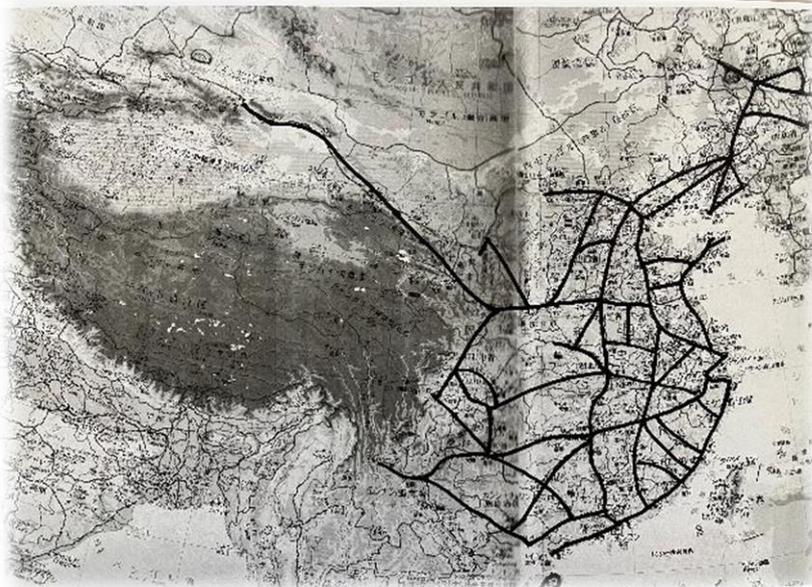
お、日本の在来線は1067mm、新幹線は1435mmとなっている。世界ローカル線紀行には、レールの幅の話がよくでてくるが、鉄道にとってはとても重要な要素なので続け

る。

鉄道に、新幹線と在来線があるという考え方は、きわめて日本的なものである。日本は、高速鉄道（新幹線）と普通鉄道の線路が、完全に独立しているからである。世界で高速鉄道が存在している国のほとんどは、普通鉄道も高速鉄道も1435mmの標準軌で、相互乗り入れ可能である。東海道新幹線でいえば、新大阪の少し手前で分岐して、淀川のあたりで在来線に合流して、大阪駅に新幹線が乗り入れるということだ。これは便利だ。岡山や博多に行く新幹線だけ新大阪に止まればいい。ヨーロッパの鉄道も基本は標準軌(1435mm、もう覚えてね)なので、この方法をとっている。例えば、ドイツの高速鉄道は、フランクフルト中央駅（在来線の駅、大阪でいえば大阪駅にあたる）に乗り入れる。フランクフルトの街中は、普通で速度で走り、町を外れたところで高速鉄道部分が分岐して、そこから先は時速300キロでミュンヘンとかベルリンに向かう。これができない日本はとても残念だと、新大阪で乗り換えるたびに思う。

明治政府はお金がなかったから、日本の鉄道を1067mmの狭軌で建設することにした（諸説あります）。当時の国力からすれば、それは仕方ない。どうも、日清、日露戦争に勝利したころ、標準軌に広げる話は軍部から何度か出たようであるが、すでに、相当な距離を狭軌で建設してしまっており、お金がかかりすぎるために立ち消えになってしまったようである。このとき、思い切って標準軌に変えていれば、今の日本の鉄道の景色もだいぶ違っていただろうと思われる。

なお、中国大陸と朝鮮半島においては、日本より10年ないし20年後に鉄道が開業したが、標準軌で建設されて現在至っている。台湾は、日本同様、高速鉄道と在来線の線路の幅が違う。



あと、中国の高速鉄道の特徴は、その広範性と建設速度である。2020年の中国の高速鉄道の延長距離は38,000キロ、日本の新幹線の総延長の10倍。東はロシア国境の綏芬河から西は新疆ウイ

グル自治区のウルムチまで、南はベトナム国境まじかまで、沿岸部はまるで網の目のようだ（図参照）。そしてその建設速度は、1年で3000キロ、日本の新幹線全線分という恐ろしい状態である。日本ほど厳密な採算性を考えてないし、強権的な用地買収もできるので、勝負にはならない（勝負する必要もない）。

ただ、定時性については、だいぶ怪しい。東海道新幹線のような高頻度運転をしていないから、5、6分の遅れはそれほど問題がないのであろう。また、先述したように、普通

鉄道との直接乗り入れや、はるか彼方からくる列車もあるので、仕方がないと思われる。

私が乗ったのは、15時30分発、チチハル行きD114列車である。きわめて細かいが、高速列車には、G●●、D●●、C●●という列車番号（上の写真の一番左）が付せられている。Gは高速（ガオスー）のG、Dは動車（ドンチャー）のD、Cは城際（チェンジー）のCである。動車とは、本来は、機関車が牽引しない動力分散型の車両の意味だが、中国では、高速列車全般をさす。「城」は中国語では、お城の意味ではなく都市の意味なので、都市間列車という意味である。Gが一番速い。



さて、その動車の車内であるが、新幹線とそっくりである（座席があるだけ

なのでそんなに個性的に作れないが）。残念なのは、窓の間隔と椅子の間隔が合致していないので、座席によって、窓がぼっちり見えるもの、半分だけみえるもの、ほとんど壁しかないようなものが混ざっている。日本の新幹線は、どの座席に座っても同じ位置に窓があるが、設計思想の違いであろう。



私の席は、残念ながら窓が中途半端な席だった。ただ、窓から見える満州の平原は、とてつもなく広く豊かである。大日本帝国が野心をもったのもわからないでもない。途中、アムール川の上流部である松花江という長大な橋梁を渡ったりしながら、3時間ほどで長春駅に着く。

長春は吉林省の省都で人口は750万人、1932年から1945年まで、満州国の首都で、当時の名前は新京といった。私の乗ってきた動車は、この町が新京と呼ばれていたときから同じ場所にある長春駅に着いた。



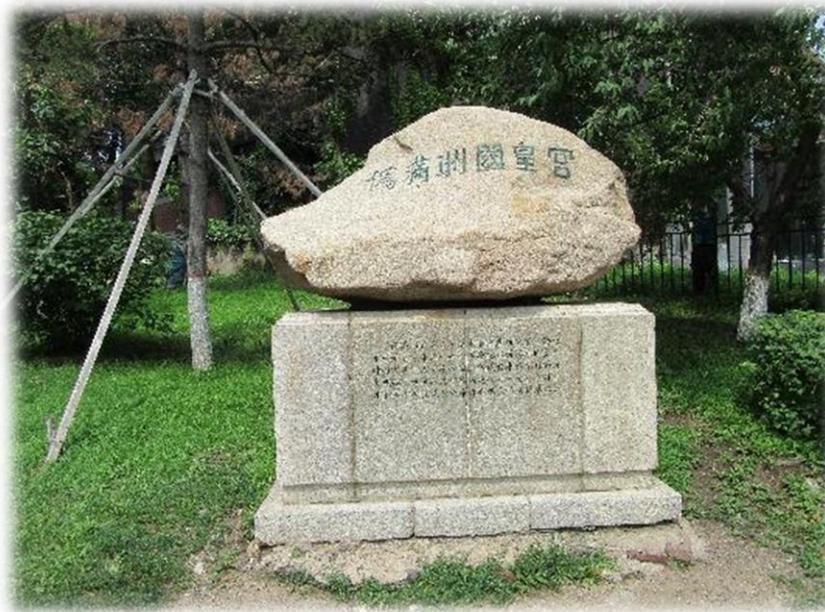
この町はいろいろと見るものがあるし、夕方になったので、一泊することにする。この町の区画整理と都市の建設は、南満州鉄道（満鉄）が行ったため、当時の日本が残した建物が多数残っている。日露戦争後のポーツマス条約で、日本は長春以南の鉄道権益を得た。中学校で習いましたよね。覚えていますか。

ところで、この原稿を書いている2月23日、ロシアがウクライナに侵攻したが、当時弱小国であった日本政府は、対ロシア政策に国家の存亡をかけていたのだなとしみじみ思う。



その長春の中心部に、日本の城っぽい巨大な建物がある。この中国に似つかわしくない建物は、昔の大日本帝国関東軍司令部である。当時の最高権力者の館は、現在の最高権力者中国共産党吉林省委員会庁舎とし

て使われている。中国にとっては過去の黒歴史の象徴のようなものであるが、それが現存し、最高権力者が使用しているのは、寛容なのか、実利的なのかはよくわからない。おそらく、関東軍が相当頑丈なものを作ったので流用したのだろう。なお、この施設も写真を撮っていないのかどうかかわからないので、読者は拡散しないように。



長春は満州国の首都だったので、皇帝愛新覺羅溥儀の皇居が残っている。おそらく、今は、「過去の侵略を忘れず強い国家を作ろう」という教育目的の施設になっている。展示内容は当然のごとく、日本に対して批判的で、館内では日本語は

しゃべりたくない。なぜ、展示が日本に対して批判的なのがわかるかというと、丁寧なことに、説明文が中国語、英語、日本語で書かれているからである（日本語で書かれてなくても、「侵略」とか「傀儡」とか「国賊」とか書いているので、批判されているのはわかる）。

なお、中国においては、満州国というものが過去にあったことを認めておらず、満州国は、「偽満州国」と呼ばれる。この呼称は徹底しており、この施設も「偽満州国皇宮」と呼ばれている。この施設の横には、「東北淪陥史陳列館」というものもあったが、漢字の雰囲気から、展示内容の想像はつく。



なんか、ローカル線紀行ではなく「戦史をたどる」みたいな記事になってきたので、今回はここで終わることにする。（終）

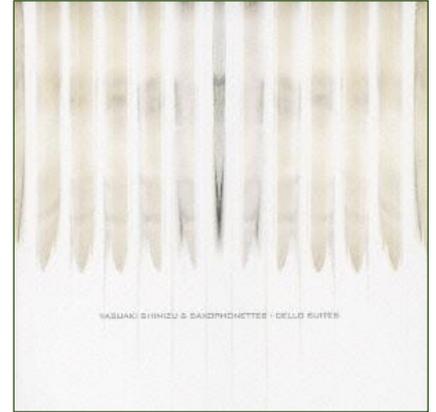


今月の一枚

～ポリフォニーの魔法～

(青木 佳史会員)

昔は今ほど、子どもの遊び場にはうるさくなくて、小学校の裏手から少し寄り道をすると、防空壕跡のような洞穴があり、空き地には大きな土管が無造作に置かれており、格好の隠れ家になった。ランドセルを放って、戦争ごっこや缶蹴りに夢中になり、遊び疲れると中に座って皆で歌を歌った。薄暗い空間に声はよく響き、数人でも合唱のように聞こえた。特に「かえるの歌」の輪唱は幾重にも声が重なって面白く日が暮れるまで興じたものだった。



清水靖晃さんが1996年と99年にサキソフーン一本で、J. S. バッハの無伴奏チェロ組曲1番から6番を全曲演奏した録音を初めて聴いた時、その音空間にすっかり魅了されてしまったのは、あのころの思い出と繋がっていたからだろうか。

無伴奏チェロ組曲は、バッハのポリフォニー形式の作曲の中でも、その技巧の神髄を示すものと言われている。近代音楽以降、曲のほとんどはメロディーと伴奏の主従の組み合わせによってできており（ホモフォニー形式）、私たちにはすっかり馴染みである。一方、教会音楽を源流とするポリフォニーは、複数の旋律や音階が主従の関係なく対等に組み合わせられて進んでいく形式（有名なのはカノンやフーガ）だが、バッハはチェロという単旋律しか奏でられない楽器の（ポリフォニーにとっての）弱点を逆手にとり、ソロ演奏にもかかわらず、精緻な構造の分散和音を巧みに配置することによって、実際には奏でられていない音を暗示し、聴く者の脳内にポリフォニックなハーモニーを仮想的に生じさせることを企てた。1番のプレリュードには、その構造がわかりやすく提示されている。

<https://youtu.be/WShgQkaFIV4>

それをドイツ舞踊のプレリュードからジークまでの6つの形式に則った組曲とし、踊りの軽やかさとチェロの深みのある響きが相まって、瞑想的でもあり思索的でもある名曲が完成した。パブロ・カザルスが発掘して以来、ロストロポービッチ、フルニエ、シュタルケル、マイスキー、ヨーヨーマ、鈴木秀美などによる数々の名演奏が愛聴されてきた。

清水さんのサキソフォンによる無伴奏は、それとは全く異なる音空間に聴く者を誘う新たな体験だった。清水さんは、サキソフォンの長く伸びるフレーズの特徴を生かし、残響の豊かな空間で演奏することによって、放たれた音同士を響き合わせ、バッハが巧みに仕込んだ隠されたポリフォニー構造を実際の音響空間に実現させたのだ。空間は各曲の特質ごとに慎重に選ばれた。倉庫を改造したスタジオ、大谷石の採掘場、釜石鉾山花崗岩地下空洞、イタリアの貴族の離宮や邸宅。

大きめの音でスピーカーを鳴らすと、時に地下の空洞一杯に水が滴り落ちるように音が沈み込み、時にホール全体を暖かく包み込むように広がり、離宮では天上から音が舞い降りては、また舞い上がっていく。子どもの頃、夕暮れの洞穴で体感したカノン（輪唱）の魅惑が増幅され、らせん状に膨らんで身体全体を包み込む浮遊感は、ひとつの至福である。

清水靖晃 チェロ組曲 4 番アルマンド+6 番ガボット 録音現場動画

<https://youtu.be/4-8XeeF1K0g>

清水靖晃 チェロ組曲 1 番プレリュード

<https://youtu.be/2wL5SYg7390>

清水靖晃 & サキソフォネッツ バッハ無伴奏チェロ組曲全曲

<https://open.spotify.com/album/14uh3rQPwSw5LtgMoJZqUB?si=yMnQCuisSSaQpMsQ0ZvL1w>



広報委員会ゴルフコンペ 2022

(72期 才木晴幹)

新型コロナウイルスが猛威を振るう中でしたが、去る2月11日、コロナ禍におけるゴルフコンペの取材のため、広報委員会有志+aの計13人が参加し、広報委員会ゴルフコンペ2022（@山の原ゴルフクラブ）が開催されました。



逆光・・・

13人のレベルは上級者から初級者まで様々でしたが、他の利用者に迷惑をかけることもなく、楽しく、かつ円滑に取材活動を遂行することができました。右の写真の派手なウェアの人たちも楽しそうです。徹夜で組分けを考えてくださった山口昌之先生、ありがとうございました。



このゴルフコンペは、春秋ゴルフは上手な、しかも大先生ばかりで参加するには気が引けるといふ若手の声に応え、「ゆるゆる」をテーマに企画されたものです。打ちにくければワンクラブ以内でボールの移動可、パーの3倍のスコアでギブアップあり、空振りは一打と数えないといった「ゆるい」ルールのもと、初心者でも緊張することなくゴルフを楽しむことができる企画内容でした。山口先生、ありがとうございました（2回目）。



大人数での会食が制限される中、ゴルフは、ある程度の人数が集まっても怒られない貴重な機会だと思います。プレー後の表彰式では、好評につき、本コンペを定例化することが決議されましたので、他事務所の先輩弁護士とのコンペは敷居が高いと感じている会員の皆様、是非次回のゆるゆるコンペにご参加ください！



執行部便り

政策担当副幹事長 高江俊名（48期）

コロナ第4波の中で始まった濱田執行部は、第6波をくり抜けながらゴールテープが目の前に近づいてきました。

私が担当する政策委員会では、この1年は、春秋会から次年度の大阪弁護士会の会長候補者を出すことに向けて、大阪弁護士会が抱える課題を明らかにし、議論を深めるための意義のある企画を開催するという重要な使命を抱えて走ってきました。

皆さまのご協力のおかげで、林委員長のもと、9月にシンポの第1弾として「広報で もつつながる 弁護士会 ～ アピールちょっと 足らんちがう」を開催し、11月には第2

弾として「人権で もっとつながる 弁護士会 ～ 新たな視点で やってみようよ」を開催することができました。

そして、1月には、無事、福田健次さんが大阪弁護士会の次年度会長になることが決まり、祝砲として、シンポの報告書（電子版）を発刊することができました。

<http://osaka-shunjyu-kai.com/magazine/> （パスワードは sjk）

政策委員会のシンポ報告書を電子版で発刊するのは初めての試みでしたが、この便りを読んでいただいて報告書をのぞいていただける方がおられたら、電子版で発刊した意義があったこととなります。

執行部全体では、次年度執行部への引継ぎや3月の臨時総会の準備などを進めているところです。

この1年間、執行部全員での懇親会というのが結局できないままになっていますので、ゴールテープを切ったあかつきには、ぜひ、全員で乾杯をすることができるようになってほしいなど願っています。



ニュースレターの原稿大募集します

広報委員会といたしましては、このニュースレターを双方向的なものにしたいと思っており、皆様の原稿を大募集します。ぜひ、投稿ください。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、マンガ、ゲームの紹介

下記にお送りいただければ、ニュースレターに掲載させていただきます（もちろん、一定の審査はさせていただきますが…）

Ghirose2021@vega.ocn.ne.jp（広報委員長のメール）



会報・ニュースレター閲覧状況

広報委員会電子刊行物のアクセス数（2月24日現在）

- ・2021 年度会報秋号（他会派にも公開） 1 9 8 1
（政策誌も含む）
- ・ニュースレター 2月号（春秋会のみ公開） 3 2 4